

II 佐藤国際交流賞

佐藤国際交流賞は、佐藤昌氏が社団法人日本公園緑地協会会長、名誉会長として長年に亘り我が国の公園緑地行政の発展並びに海外諸国との専門的交流や東洋、欧米諸国の公園緑地制度等に関する数々の優れた研究著述を通じ、造園分野における我が国の国際的地位の確立に大きな貢献をされたことを記念して、平成4年に設けられております。

第28回佐藤国際交流賞受賞者（敬称略・五十音順）

- ① ^{くりす}栗栖 ^{ほういち}宝一（81歳）

現 Kurisu LLC President

受賞理由

氏は、40年以上の長きにわたりアメリカ合衆国における日本庭園の伝統的作庭・維持管理技術指導（1968-1972；アメリカ・オレゴン州ポートランド庭園ディレクター）から、さらに発展的に雑木の庭を中心とした自然主義的、芸術性の高い空間の創出に大きく貢献してきている。1964-1968年、故小形研三氏の下で研鑽を積み爾来、アメリカ各地で「雑木の庭」の思想を庭園の基本的コンセプトとし個人庭園から公共の庭を世に出してきている。その成果は3つの視点から作品が生み出され、日本庭園の持つ思想性、芸術性、精神性から高い評価を得てきている。

その一つ目は、アメリカ合衆国を中心とした「雑木の庭」の普及、二つ目は地域的多様性を「雑木の庭づくりの中で取り込んだ時期、三つ目は、癒しの庭の実現と普及・啓蒙である。

小形研三の「庭造りの神髄はモノではなく、心にある」を基本とし日本庭園として「雑木の庭」の普及啓蒙を続けて来ている。その流れの中で、各州現地の在来植物や石材を積極的に導入・デザインし、温帯から亜熱帯まで各地において造園空間を設計監理してきた。さらに1979年以降では設計デザインの根幹に「癒しの空間・庭づくり」を置き2000年以降、住宅団地から病院、刑務所に至るまで公共・法人向けの作品の中で癒しの空間づくりに「雑木の庭」の手法を取り込み、幾多の賞を受賞し社会的評価を得てきている。

② ^{みやこだ}都田 ^{とおる}徹 (78歳)

現 株式会社景観設計・東京代表取締役

受賞理由

氏は、カリフォルニア大学バークレイ校及びハーバード大学留学中、エクボ事務所(EDAW)、ピーター事務所(SWA)、ササキ事務所(SDDA)、ザイオン事務所(ZBR)で働き、アメリカのランドスケープ事務所の運営・マネジメントを学んだ。帰国後「ガレット・エクボ」「ロバート・ザイオン」「EDAW」等の特集号を出版し、アメリカのランドスケープ事務所の実情を報告した。

国際交流を結ぶ方法としては、「エクスチェンジプログラム」の「留学同意書」を大学相互間に結ばせ、交流関係を作るよう促進した。また、アメリカ、中国等の大学での特別講義の事例は約10校に及んでいる。

1988年からルイジアナ州立大学が行ってきた「インターン生制度」の「受け入れ事務所」として努力してきたことがASLA(米国ランドスケープ協会)に認められ、2007年ASLAのFellowに就任。現在、関係した10大学のランドスケープ学科の学生・先生とインターン生受け入れを通じて、「相互交流関係」を確立させている。30年間で30人の学生の受け入れを行い、日本のランドスケープの国際的な認知に対する貢献を行っている。

その他数多くの海外プロジェクトによって、クライアントや関係者とのcommunicationを通した国際交流の数々が実績となり、JOBの関係を結べるようになっていく。

③ やぎ つとむ
矢木 勉 (95歳)

現 一般財団法人日本造園修景協会顧問、兵庫県支部顧問等

受賞理由

氏は、昭和24年、神戸市に造園職として入庁し、公園緑地部長を長年務めた。神戸市が、戦後我が国で初めて「花時計」を設置した経緯もあり、市退職後も継続して国内外の花時計の調査、研究に携わり、その成果を著書等を通じ国内外に発信してきた。海外の花時計も可能な限り現地調査に赴くとともに、様々なルートを通じ情報収集、整理分析し、調査研究成果を著書に著している。その著書を各国の花時計の現地事務所に送るなどを個人で活動してきた。これまでの集大成である平成30年発行の「世界と日本の花時計」は英文併記の労作であり、ジュネーブ市、ベルサイユ市、エジンバラ市、クリチバ市、ソウル市、WUP本部など海外関係市・組織等に贈呈するとともに、特に世界で初めて花時計を設置したといわれるエジンバラ市については、在エジンバラ日本国総領事館高岡総領事からフランク・ロス市長に直接贈呈され、大きな感謝、評価を得るなど、花時計を通じた個人での国際的な交流活動の推進に多大の努力、成果を上げている。

(年齢は令和2年3月31日現在)